

女子大学初の工学部新設 奈良女子大学学長に聞く

働き方の変化を見据え、奈良で専門教育を学ぶ「意義」

奈良の大学や企業でも、変化する世界に対応しようとさまざまな新しい構想が立ち上がっています。奈良女子大学では、2022年4月に県内、そして女子大学で初の「工学部」の新設(設置認可申請中)に向けて、各機関と連携しながら準備を進めています。

今、奈良で工学を学ぶ環境を整えることの意義や、そこから輩出される人材が地域や世界と将来どのように関わっていくかについて、奈良女子大学の今岡春樹学長にお話を伺いました。

—今、なぜ女子大学に工学部なのか

私自身、工学部出身ですが、工学には社会を変える力があると思っています。工学は「世の中に今無いものを作り、世の中を変えたい」という思いが原動力となる学問です。

この無から有を生み出す「ものづくり」の力は、男女に共通して存在します。しかし、大半の国内の大学で、工学部に在籍する女性の割合は10%程度。この現状を打破するために考えたのが、女子大初の工学部新設構想です。

—どのような人材が生まれるか

アメリカでは、世の中を変える能力に長けた人材を育成するため、10年以上前から科学・技術・工学・数学の分野を幅広く学ぶ「STEM教育※」を導入してきました。これによって国力を増強し、実際に成果を出してきました。

新設する工学部にも、この教育分野を取り入れます。国際的な競争に打ち勝ち、女性の社会進出を進める上でも、工学を含むこの分野の「幅広い学び」が重要ではないでしょうか。学問全体を多角的に学び、その中から「これだけは深めたい」というものを自分で選び取る。そのような教育カリキュラムを本学でも提供することで、時代を変えていく人材

を奈良で育んでいきたいと考えています。

—奈良だからこそ得られる力とは

海外企業との商談の場で必ず話題に上るのは「文化」の話。こちらの文化を相手に伝えることで、驚きや発見が生まれ、お互いの価値を認め合う信頼につながります。そして日本文化を深く知るには、奈良は本当に最高の場所です。

例えば正倉院展の始まり。戦後すぐの殺伐とした時期にもかかわらず、本物の宝物を見るために全国各地から人が押し寄せました。日本人が自身のルーツを知るふるさとでもあり、一生かかっても見られない貴重なものが身近にある場所、それがこの奈良です。奈良は、異文化を理解するのに必要な、日本文化を実体験として学べる随一の場所です。奈良で学ぶ人生というのは、本当に素晴らしいことだと思っています。

—異分野・他機関との連携の予定は

現在、奈良教育大学との法人統合や、奈良国立博物館・奈良文化財研究所をはじめ、近隣の教育機関・研究所とも連携した教育も計画しています。また、学部の新設に際しては、奈良先端科学技術大学院大学や奈良工業高等専門学校その他、奈良市に開

奈良女子大学 学長
今岡 春樹 さん

1990年から奈良女子大学で教鞭を取り、2013年から学長に就任。工学博士(東京工業大学)。専門はアパレル工学、システム科学。

発掘点を構えるDMG森精機等、技術力のある企業にも相談し、実習場の提供や民間講師の派遣等の協力を得ています。そして、既に奈良で事業を展開する大和ハウス工業やATOUN等とも連携を進めています。現在も学生は、企業の研究施設の中での実践や、企業の方を講師として本学に招き入れる等、積極的に地元のみなさんと交流を行っています。異なる能力の人たちが集まり、そして語らうことが何より大事だと私自身思います。

異なる分野や機関との交流により、その相乗効果は大きく開花します。誰も解決したことのない問題を探し、世の中にまだ無いものを作る。奈良の地から、その起爆剤となるような人材を輩出し、社会に新しい「価値」を創造する仕掛けを築くことができ、未来に期待しています。

奈良女子大学…1908年創設の奈良女子高等師範学校を前身とし、1949年に発足した国立大学。文学部・理学部・生活環境学部・大学院人間文化総合科学研究科を有する。国立の女子大学はお茶の水女子大学と同学の2校のみ。

※STEM(ステム)教育…Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)の教育分野を総称し、この分野を身につけることで、ICTやグローバル社会に適応した国際競争力を持った人材を多く生み出そうとする、21世紀型の教育システム。近年ではここに、創造性の分野であるArts(芸術またはリベラルアーツ=教養分野)を加え、「STEAM(スティーム)教育」とも呼ばれる。